

2021年度

三重大学 人文学部法律経済学科

特殊講義「協同組合論」

<第12回>

「協同組合間協同について」

前田 健喜／日本協同組合連携機構 協同組合連携2部長



第12回（1月5日）：受講47名（対面9名、リモート38名）

協同組合を一言でいうと「人を中心に置く組織」である。組合員のニーズから出発し、暮らし全体のこと、地域社会全体のことや、次世代のことを考えている組織と言える。

協同組合は、組合員が暮らし・仕事をする地域社会を基盤とする組織であり、どの協同組合にとっても地域社会の存続は最も重要な課題の一つである。これからの協同組合間協同は、事業における協同組合間の協同にとどまらず事業の基盤たる地域づくりの協同が必要となっている。組合員や住民が中心となってすすめる協同が大事であり、組織はその活動を支援することが重要。協同組合を越えた地域全体での協同にも期待している。

【第12回／講義の要旨】

- ・ICA（国際協同組合同盟）が、1937年に「協同組合原則」を策定した。1966年の改定で協同組合間協同の原則が加わり、1995年の改定で「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」として「定義」と「価値」が加わった。
- ・「協同組合原則」第6原則は「協同組合間の協同」である。この原則の背景には、欧州の生協が連帯して大規模なスーパーマーケットに対抗することであった。生産者と消費者の協同組合は普通の意味では利害が対立するので、日本のような農協と生協の連携は世界的に珍しいと言われている。
- ・日本の協同組合全体の組合員数は、延べで1億500万人を超える。協同組合が生み出す付加価値は5兆6000億円となる。
- ・2021年11月～12月、ICAソウル大会がハイブリッド形式で開催された。この大会のテーマは「協同組合のアイデンティティを深める」であった。多様性や連帯、社会を変えていくといった課題に向き合う世界各地の事例が共有された。
- ・1985年、全国協同組合間提携推進事務局が、長期目標として「協同組合地域社会づくり」を掲げた。環境問題や、暮らしと健康などの課題が挙げられ、協同組合の連携による地域づくりが課題となった。
- ・2012年の国際協同組合同年で連携の機運が高まり、2014年、政府からの「農協改革」の動きに協同組合が危機感をもち、日本協同組合連絡協議会が連携強化を検討、2018年4月にJCA（日本協同組合連携機構）を発足した。
- ・近年、住民主体の持続可能な地域づくりが生まれている。持続可能な地域づくりにとって協同組合どうしが協同することより、協同組合が組合員や住民主体の動きを応援していくことが重要である。
- ・全国で様々な協同組合間の連携がすすんでいる。産消提携型、事業連携型、地域連携型、学習会・イベント型、災害支援型、人材育成型と6つの類型に分けることができる。

第12回講義／受講生のレポート（抜粋）

- これまでの講義でも何度か課題として挙げられていた、協同組合がそれぞれ別個の法律によってなっているという点が協同組合の連携をより複雑にしているという点を知り、法律を勉強する者として体系は維持しつつも柔軟に解決できる制度がないのか考えさせられる。連携の類型では想像しやすい産消提携型や事業連携型だけでなく、地域連携型、学習会・イベント型、災害支援型といったものまで幅広くあり、協同組合の意義でもあるやりたいこと必要なことを自由に主体的に行われてきた結果なのだろうと感じた。
- 協同組合間では様々な連携を通して地域社会への貢献のために多角化を図っていることを理解した。
- 今回は協同組合間の連携というものを学び、日本のいろんな分野の協同組合が産消連携型、事業連携型、地域連携型などといった連携も様々な形態があるということを知った。そして、私たち一般市民に協同組合の活動をより浸透させていくにはイベントや学習会での活動が一番目につきやすいのかなと思った。
- 今まで学んできた様々な協同組合が連携することによって、より地域住民に寄り添った取り組みを行うことができるようになったり、互いの得意分野を生かしたり、持っている施設を活用したりすることでさらなる取り組みに発展させることが出来ているのだなと感じた。事業間だけではなく、地域の活性化・発展のためという根本的なところに立ち返って活動することは、改めて大切だということを感じた。
- 組合員間のコミュニケーションや信頼関係を強いものにし、また協同するそれぞれの組織が多様性を生かすことで連携が進むという点は、共通して重要なものであると考えた。事業における協同から、事業の基盤である地域づくりにおける協働にシフトしていこうという話は非常に興味深いものだと感じた。そこにおける、組織同士の連携というよりも組合員の自発性や彼らの動きが中心となり、それらを支援するという組織の動きは、今後も協同組合を学ぶ上で頭に入れておきたい考えである。
- 毎回の講義で協同組合の主役は地域住民であるということ強調されていたが、今回の講義ではよりそれが強調されていたと感じた。いろんな地域の協同組合の取り組みを知り、自分も生協を利用していることから自分たちの生活には協同組合の支えがとても重要であるということが改めて感じる事ができた。
- これまで協同組合の個々の働きについては理解してきたが、それらの協同組合が連携していることについては初めて知った。一つの協同組合だけにとどまらず、協同組合同士が連携して包括的な支援を行うことは、誰一人置き去りにしない支援を実現するためにも深い意義があることだと強く感じた。
- 今までの講義では単体の協同組合について深く知ることができました。今回の協同組合間の連携についてはとても画期的な取り組みであると感じました。協同組合は組合員が中心となって活動しており、一般企業や行政と比較して小規模であることが特徴であると考えていました。そのため、組合員が多く入れ替わる大学生協では協同組合の活動が浸透しなかったり、コロナなどの影響を受けやすいと感じました。協同組合間で協力することで活動に参加する人数が増加し、活動の活発化につながるという点が最も大きなメリットであると感じました。協同組合は特定の分野に特化して活動していることが多いです。それぞれの得意分野を活かして連携することでより地域に根差した活動を行うことができます。組合員だけでなく、地域との連携がさらに深くできる点において協同組合間の連携はとても意味のあることであると感じました。
- 組織が主体になるのではなくあくまで組合員が主役なのだと改めて感じました。今後組合員さんに主体的に動いてもらうために協同組合はどう動くべきなのかなと感じました。

- ・ J A愛知とコープあいちの連携からわかるように協同組合が地域に根付いていることから協同組合の意義を感じた。とくに「おしゃべり」では普段の話し合いから地域の課題を発見し、解決へと向かうという取り組みが地域の人々の居心地の良い居場所づくりと課題解決の2つの意味を持っていることが良いと思った。このように地域住民や組合員の主体的な動きを協同組合が支援することで様々な取り組みを行うことができる。また、それぞれの協同組合には特色があるため、連携が推し進められることでそれぞれの特色を生かすことができるが、それを生かすにはやはり地域住民や組合員の主体的な動きが必要だと学べた。
- ・ これまではそれぞれの協同組合について焦点を当てた講義であったため講義を受ける前はどのように協同組合が連携して活動するのか検討がつかなかった。しかし今回の講義で協同組合間の連携について学ぶことができた。特に、地域における協同組合間協同の取り組みについてはそれぞれの地域に対応した取り組みをしており、三重県での取り組みに関するお話が興味深かった。高齢化によって第一次産業が低迷していると言われていた中、農業の協同組合と漁業の協同組合が協同し、第一次産業から地域を活性化しようとする取り組みが他の地域でも広まってほしいと感じた。人々の自発性が必要とされ、人々が地域を作っていくということをより詳しく学ぶことができた。
- ・ 前田さんの「持続可能な地域づくり」では協同組合同士の協同よりも、組合員や住民が主体の動きを応援していくことが重要であるというお話に強く理解をすることが出来ました。様々な協同組合や住民ひとりひとりが各々の強みを主体的に発揮することでつながりはよりよいものとなることは容易に想像することが出来ました。協同組合はそれを実際に体現できるようにする為の立場になり、応援支援をすることが必要なのだなと感じました。講義最後に前田さんがおっしゃった、協同組合間協同がすすむ前提や要素は非常に納得の出来るものだった為、これらを実現できればいいなと思いました。
- ・ 協同組合の取組の意義として、組合員・地域の住民を支える、主体的な動きを支援していくことが、今後協同組合として非常に重要であると感じました。非常に個人的な見解で申し訳ないのですが、「一部の方が頑張っていて、組合員になればその恩恵を享受できる」というような協同組合に対する認識が未だ強いのではないのでしょうか。そういった認識の払拭が重要であり、本講義もその払拭のための活動の一つであると思いました。ただ一つの懸念として、主体的ではない組合員の存在をどうするかという問題があるように感じました。主体的に動いてもらえるように促すことは良いと思いますが、あまり強制するような形になるのは、好ましくないとします。しかし一方で、一部の主体的な方が頑張った恩恵を、受動的な方が享受する形に不公平という感情が生まれかねないこともあり、非常に難しい問題のように思います。
- ・ 一つの協同組合だけで活動していくのではなく、協力していくことによってそれぞれの協同組合が持つ強みを活かした事業が行えることや弱い部分を補っていくことが出来ると思うので、多くの課題や需要をカバーしていくことに繋がっていくと感じました。また、協同組合だけが積極的に活動していても限界があるので、地域に住む住民が主体的に行動していくことで地域を活性化していくことになると思いました。
- ・ 様々な活動が関わり合って協同組合間の連携強化に繋がっていることがわかった。そして、それらによる地域づくりやまちづくりによって、私たちの生活が成り立っていることを実感した。機会があれば協同組合の行っている活動に参加をすることでより理解を深めたいと思った。

以上